

会議議事録

会議名	2024年度第2回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会
開催日時	2025年2月17日(火) 13:30~15:30
場所	オンライン(本校会場:会議室)
出席者 (敬称略)	①外部委員:篠原陽子(一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会 ヘルス・アンド・ビューティケア人材育成センター事務局長)、三上真理子(株式会社ツルハ人材採用部係長)(計2名) ②本校委員:川口拓也(校長)、渋谷大樹(くすり・調剤事務科学科長代理)、清水之雅(くすり・調剤事務科教員)、榊原幸之(事務局長)(計4名) ③事務局:長尾勇介(合計7名)
欠席者	結城久美子(くすり・調剤事務科学科長)
配付資料	事前送付:□資料1:2024年度第1回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会議事録(案)、□資料2:2024年度第1回委員会以降の主な経過報告、資料3:2025年度生カリキュラム
議長	渋谷学科長代理
議題等	<p>1. 委員紹介・挨拶</p> <p>委員の紹介の後、川口校長より、教育課程編成委員会でいただいた意見をカリキュラムに反映させ、また点検していくという流れになる。本委員会は高等教育修学支援新制度の要件の一つに位置づけられている。本日はカリキュラムの中身のほか、入りの学生募集、出口の就職について報告するので、忌憚ないご意見を頂戴したい、との挨拶が行われた。</p> <p>2. 2024年度第1回委員会議事録の確認(資料1)</p> <p>議長より前回の議事録について確認したところ、委員より修正意見はなく、原案のとおり承認された。</p> <p>3. 2024年度活動報告</p> <p>・2024年度第1回委員会以降の主な経過(資料2)</p> <p>担当者より資料2に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。</p> <p>4. 2024年度第2回委員会での討議事項</p> <p>(1) コンビニ業界の参入に伴う登録販売者の変化と今後の在り方について</p> <p>(2) 調剤事務の業務について、今後の変化に合わせた教育方針</p> <p>上記の討議事項について、質疑、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。</p> <p>5. 2024年度第2回委員会について</p> <p>討議内容(予定)</p> <p>(1) 2026年度カリキュラムについて</p> <p>次回は2025年6月末か7月上旬を予定しているとの報告があった。</p> <p>(その他意見交換)</p> <p>全議題終了後、意見交換を行った。詳細は別紙のとおり。</p>

以上

2024 年度第 2 回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 2024 年度活動報告

- ・2024 年度第 1 回委員会以降の主な経過（資料 2 参照）

○渋谷学科長代理、清水教員より各項目について説明が行われた。

1. 在籍状況
2. 就職内定状況
3. 2025 年度学生募集
4. 2024 年度薬局・薬店実習
5. 2024 年度登録販売者試験結果
6. 検定合格状況
7. 2025 年度生から変更となる検定
8. 2024 年度後期授業アンケート結果
9. 学生生活

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>・登録販売者試験で 1 年生 3 分の 1 が合格しているが、授業の中で試験対策をどのくらいやったのか。</p> <p>・補講は 1 年生も対象としているのか。</p> <p>・今後留学生が増えてくると思うが、日本と外国の文化の違いに関する授業があるとよいと思った。</p> <p>・留学生に対して日本語検定 1 級取得に向けたフォロー体制があると、就職にも結びつきやすく、途中で辞める人も減ってくると思う。</p> <p>・今後、登録販売者として留学生の雇用を増やしていく方向にあるのか。</p> <p>・国は、専門学校役割として、留学生への職業教育を打ち出しているのので、本校も対応していきたい。（川口校長）</p>	<p>・補講を実施した。2 年次に受験する予定のカリキュラムなので、教科書の内容が半分程度しか終わっていない学生が受験している。他の学生は、2 年次に取得を目指す。</p> <p>・毎年 2 年生を対象に夏休みに補講を行っている。1 年生は任意で参加した。</p> <p>・留学生が在籍している。日本語のコミュニケーションに問題はないが、学習への取り組み方などに文化の違いを感じる。</p> <p>・ニーズはあると思う。英語が話せることがポイントになるのではないかと。</p> <p>・外国人スタッフが増えているので、学校で基礎知識やマナーを教えてもらえるとよい。（篠原委員）</p>

4. 2024年度第2回委員会での討議事項

(1) コンビニ業界の参入に伴う登録販売者の変化と今後の在り方について

(2) 調剤事務の業務について、今後の変化に合わせた教育方針

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬機法の改正により、薬剤師、登録販売者がいないコンビニでも一定の条件があればO T Cが販売できるようになった。これに伴い、登録販売者の需要、働き方に変化があるか。 <p>(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調剤事務はD X化が進み、ピッキングや調剤補助の業務に推移していくと言われている。現在の導入状況、今後の変化を見据えて学生にどのように指導していけばよいかを伺いたい。 ・正社員の採用を始めたきっかけは何か。 ・ピッキングにシフトしていくとなると、学校では機械の導入が難しいので、実習の充実、拡大を検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン診療が増えると、コンビニでの受け取りや自宅配送システムにチェンジすると予測している。登録販売者の立場について、社内では特に言われていない。 ・管理店舗でI Tやオンラインで診断し、受渡し店舗で医薬品を販売する形になると思うが、移行期間を経て2年後ぐらいと聞いている。今はオーバードーズの問題に関心が高いので、濫用薬に対する知識を持ち、きちんと接客できる登録販売者が店舗にいることが求められてくると思う。 ・調剤事務は地元のパートにお願いしていたが、昨年度初めて正社員の採用を行った。専門学校の卒業生は即戦力として期待しているので、入力スピード、正確性を指導していただくとよいと思う。 ・今まで事務の方はピッキングができなかったが、薬剤師助手という形で補助ができるようになったので、調剤事務の方を増やすことにより薬剤師の業務負担を削減したいと考えた。 ・ファーマーアシスタントという制度ができて、その教育の受講者が増えている。医薬品業界のD X化がよく言われているが、協会として委員会を立ち上げて検討することは考えていない。

(その他意見交換)

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>・化粧品は女性が販売することが多かったが、最近 は若い男性が美容や化粧品に興味を持っていると いう話を聞く。教育をする上で何かヒントがあれば いただきたい。</p> <p>・月一回の化粧品の勉強会は、各企業から商品の説 明に来ていただくような形で行うのか。</p> <p>・店舗によっても、ロケーションによっても違うと 思うが、ドラッグストアの売上に占める薬の比率は どのくらいか。</p> <p>・学生がドラッグストア業界に行こうと思ったとき は、商品の売れ筋を知っておいたほうがよいとい うことは言えるか。</p>	<p>・確かに男性の化粧品担当者が増えてきてい る。毎月、化粧品担当者の勉強会を行っている が、そこでは男性、女性に関係ない。お客 様対応に関しては、男性を嫌がる人もいると 思うが、逆に、孫のようですごく感じがいい という方もいる。</p> <p>・ビューティー関係を学んだ男性スタッフがお 客様の質問に的確に回答したところ、男性 でもこれだけできるのだから、この女性は もっとすごいだろうと、評価が上がったと いう話がある。男性の目できれいになったと 言われるとうれしいという前向きな意見も あった。</p> <p>・地域ごとに支社に集まり、1か月に2メー カーずつやっている。</p> <p>・我が社では、医薬品と調剤を合わせて25%、 化粧品 25%、日用品と食品を足して 50%と いう構成比になっている。他社では、食品だ けで 50%を占めているところもある。</p> <p>・お客様を呼ぶために食品や生活雑貨を取り 扱っている。</p> <p>・それは入社してから覚えればよい。</p> <p>・登録販売者はマストで持っておいてもら いたい。</p>

以上